

## 平成29年度社内研修会

4月28日(金)～29日(土)、恒例の社内(一泊二日)研修会をグリーンピア大沼で開催しました。外部研修は道立函館美術館で特別展「始まりはパリ。昭和の洋画を切り拓いた若き情熱-1930年協会からの独立-」を鑑賞しました。最初に学芸員の方から1920～30年代の画壇に新風を吹き込んだ「1930年協会」と「独立美術協会」の活動や画家たちの作風等について解説していただきました。

昼食後、午後から研修会です。昨年度の決算報告と戸沼社長の今年度の経営方針の発表の後には、外部講師による講演です。



講師は北海道中小企業家同友会の細川修専務理事です。細川専務理事には「中小企業の未来と私たちの課題」というテーマで、情勢分析から始まり、挑戦し続けている道内中小企業の経営実践や私たちが取り組まな

ければならぬ課題について分かりやすくお話していただきました。

休憩後、平成29年度のマネジメントシステムについて木村常務から説明があり、土木部門、建築部門、総務・営業部門から前年度実施計画の結果報告がありました。研修一日目の最後は、土木部の吉田さんと朝山さん、建築部の山本さんが独自のテーマで発表しました。



研修会二日目。「工事成績優良者・優良運転者表彰」の後、「特許・転石固定工と新型ボーリングマシン」について梅木常務と梅木優邦さんが報告しました。戸沼会長が前日を総括し、グループ討論の開始です。

今回のテーマは「戸沼岩崎建設の内部課題と外部課題」と「個人目標の設定」です。約2時間、7つのグループに分かれて討論が行われました。「研修の成果を深め、日々の仕事の中で具体的に取り組んでください」と戸沼社長がまとめ、二日間の研修を終了しました。



## 安全と衛生



戸沼岩崎建設株式会社 発行  
平成29年6月15日  
<http://www.tonuma.com/>  
第222号



### 戸沼会長 北海道知事感謝状

5月30日(火)、ホテルポールスター札幌で開催された北海道民有林治山事業70周年記念治山事業功労者表彰において北海道水産林務部の佐藤卓也局長から知事感謝状が当社の戸沼平八会長に手渡されました。感謝状は戸沼会長をはじめ、長年にわたり、治山事業の推進や技術の普及・啓発等に功績があった5名の方々に贈られました。



### ボランティア活動 函館新道沿道の花壇



5月29日(月)と30日(火)、函館市の玄関口である国道5号線(函館新道)石川町の沿道花壇の草取りと土おこしのボランティア活動に当社から2班に分かれて参加しました。

花壇には「函館花いっぱい道づくりの会」が平成16年からマリーゴールドやベゴニアの花苗を沿道の花壇に植栽しています。

### 利尻富士

礼文島の現場から富吉さんが送ってくれた利尻富士の写真です。戸沼岩崎建設の社員は、函館や道南、全道、宮城県で奮闘しています。



## 平成29年度全国安全週間

7月1日(土)～7日(金)は平成29年度(第90回)全国安全週間です。今年のスローガンは「組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化」です。全国安全週間は「人命尊重」「安全第一」という基本理念を土台に全ての働く人たちが、労働災害のない安全で働きやすい現場・職場づくりを目指すための週間です。6月は準備期間(6/1～30)です。月例の店社パトロールはもちろん、リスクアセスメントの着実な実施等、全国安全週間に備えて参りましょう。

〈 全国安全週間及び準備期間中に実施する事項 〉

1. 安全大会等での経営トップによる安全への所信表明を通じた関係者の意思の統一及び安全意識の高揚。
2. 安全パトロールによる職場の総点検の実施。
3. 安全旗の掲揚、標語の掲示、講演会等の開催、安全関係資料の配布等の他、ホームページ等を通じた自社の安全活動等の社会への発信。
4. 労働者の家族への職場の安全に関する文書の送付、職場見学等の実施による家族の協力の呼びかけ。
5. 緊急時の措置に係る必要な訓練の実施。
6. 「安全の日」の設定のほか全国安全週間及び準備期間にふさわしい行事の実施。



### 北海道魚道研究会 通常総会

NPO法人 北海道魚道研究会は6月5日(月)、通常総会を開き、昨年度の事業報告と今年度の事業計画などの議案を全会一致で議決しました。活動報告の中では、道内で唯一、第1回メンテナンス大賞の優秀賞を受賞したことが報告されました。役員改選では、森居理事長と3名の副理事長を再任。また、当社の戸沼淳社長をはじめ14名の理事を選任しました。

総会后、九州大学大学院工学研究院の島谷幸宏教授を招いて定期講演会を開催しました。島谷教授は九州各地で取り組んだ自然環境に配慮した洪水対策などの事例を報告しました。また、ワークショップなどで反対意見が出たとしても、技術者として安全で良いものを造るという強い信念、次世代を考えた環境づくり、合意形成に向け人の意見を変えることができることを信ずることが重要であると説かれました。

